

5 南津海・南津海シードレス

(1) 生産目標

| 品種・系統 | 10a当たり収量 | 精果率 | 階級割合 | 糖度 |
|--------------|----------|-------|----------|-------|
| 南津海・南津海シードレス | 4.3t | 90%以上 | M・L80%以上 | 13度以上 |

(2) 経営指標及び労働時間

経営指標 (10a 当たり)

| 項目 | 南津海 |
|-------------|-----------|
| ①出荷量(kg) | 4,085 |
| ②販売単価(円) ※1 | 332 |
| ③粗収益(円) | 1,356,220 |
| ④経営費(円) | 943,057 |
| ⑤農業所得(円) | 413,163 |

※1 令和2年～令和5年の平均単価

ア 販売価格の推移

(単位:kg当たり円)

| 年次 | H26 | 27 | 28 | 29 | 30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 単価 | 268 | 304 | 346 | 311 | 271 | 306 | 316 | 377 | 305 | 332 |

(H30 まで: 全農山口扱い、R1～: J A山口県扱い)

イ 経営費の内訳

| 経営費の内訳 | 金額 | 備考 |
|------------------------------------|---------|---|
| 肥料費 | 116,077 | 販売費用内訳 賃借料・料金 106,210 包装資材費(円/10a) 40,850 運賃(円/10a) 45,344 手数料(円/10a) 149,184 合計 341,588 |
| 農業薬剤費 | 49,688 | |
| 光熱動力費 | 5,380 | |
| 諸材料等・修繕費 | 24,887 | |
| 土地改良・水利費 | 4,741 | |
| 償却費 | 368,791 | |
| 販売費用 | 341,588 | 賃借料・料金は選果経費 手数料: 市場7%、JA4% |
| 管理費用 | 31,906 | |
| 合計 | 943,057 | |
| ※ 雇用労賃は、品種等の組み合わせによって変動するため計上していない | | 管理費用内訳 支払利子 8,034 保険料・共済掛金 22,410 その他 1,462 合計 31,906 |
| ※ 減価償却費は、かんきつ栽培2.2haの経営とした場合を想定し算出 | | |
| | | |
| | | |

ウ 投下労働時間 (10a 当たり時間)

(ア) 月別労働時間

| 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 4 | 2 | 4 | 74 | 62 | 8 | 8 | 34 | 12 | 12 | 7 | 2 | 229 |

(イ) 作業別労働時間

| 整枝 せん定 | 施肥 | 中耕 除草 | 防除 | 摘果 | かん水 | 園内 管理 | 収穫 | 運搬 | 選別 出荷 | その他 | 合計 |
|-----------|----|----------|----|----|-----|----------|----|----|----------|-----|-----|
| 5 | 8 | 20 | 24 | 22 | 21 | 8 | 56 | 7 | 35 | 23 | 229 |

(3) 重点推進事項

| 事 項 | 推 進 内 容 |
|-----------|--|
| 1 整枝・せん定 | 1 樹形は開心自然形とする。 2 せん定 強せん定や切返しの多用は避け、平行枝、逆行枝、下垂枝の間引きを主体とする。 |
| 2 摘果 | 9月中旬までに最終葉果比30～40を目標として、小果と大果を中心に全摘果量の70%程度を粗摘果する。10月中旬までに仕上げ摘果を行う。 |
| 3 施肥と土壌管理 | 施肥・土壌改良 有機物の施用により、通気や排水を良くして細根を増やし、安定した樹勢を維持する。 |
| 4 病虫害防除 | 病虫害防除はうんしゅうみかんに準ずる。特にかいよう病の発生が多いため重点的な防除を行うとともに、かいよう病罹病枝の処理を実施する。 |
| 5 防寒・防鳥対策 | 採取時期は3～4月であり、防寒・防鳥対策のため、果実袋や樹体の被覆を行う。 |
| 6 予措・貯蔵 | 1 採取は浮皮や退色しやすい樹冠上部や外成果から行う。予措時の減量率は2～3%とする。 2 貯蔵は湿度85～90%の条件下で行い、庫内温度を低温に保つため、換気は朝晩とする。コンテナ貯蔵では乾燥防止のため不織布シートでコンテナを覆う。 |

(4) 南津海の作業

| 月 | 旬 | 生育状況 | 作業名 | 作業の内容 |
|----|-----|-------|--|---|
| 2月 | 上～中 | 花芽分化期 | 石灰及び苦土の施用 有機物の施用と深耕 ハウスの換気 | 土壌酸度の矯正目標はpH5.5～6.0で温州ミカンに準じて行う。苦土欠症状態が見られる園では苦土石灰を施用する。石灰資材施用後は軽く混和する。ただし極端な断根は樹勢が低下するので避ける。 有機物は10a当たり1,000kg程度、樹冠下ローテーション施用する。中耕と有機物の積極的な投入により、通気や排水を良くして細根をふやし、樹勢を強化する。 ハウス内温度が25℃以上になると浮皮が発生するため、高温時には換気を行う。 |
| 3月 | 中下 | | ハウス栽培の春肥施用 露地栽培の春肥施用 ハウス栽培の採取 予措・貯蔵 ハウス栽培の液肥散布 | 樹勢や前年の結果状態や土壌条件など考慮して、施肥基準を参考に施用する ハウス栽培の項に準じる。 採取は浮皮や退色しやすい樹冠上部や外成果から行う。予措時の減量率は2～3%とする。 貯蔵は湿度85～90%の条件下で行い、庫内温度を低温に保つため、換気は朝晩とする。コンテナ貯蔵では乾燥防止のため不織布シートでコンテナを覆う。 収穫後にN主体の液肥（例：尿素500倍）とりん酸剤の葉面散布を2～3回散布する。 |
| 4月 | 上～下 | 発芽期 | 除草 ハウス栽培の整枝、せん定 露地栽培の採取 予措・貯蔵 | 肥料吸収効率向上のため除草を行う。 平行枝、逆行枝、下垂枝の間引きせん定を中心に行う。 ハウス栽培の項に準じる。 |
| 5月 | 中下 | 開花期 | 露地栽培のせん定 液肥の散布 被覆ビニールの除去 | 平行枝、逆行枝、下垂枝の間引きせん定を中心に行う。 N主体の液肥（例：尿素500倍）とりん酸剤の葉面散布を2～3回散布する。 |

| | | | | |
|----|------------------|--------|---------------------------------|---|
| 6 | 上 月 中 | 緑化完了 | 夏肥の施用 | 樹勢や結果状態、土壌条件を考慮して施肥基準を参考に施用する。 |
| 7 | 中 月 | 生理落果終了 | 除草 | 梅雨明け後に行う。 |
| 8 | 上 月 中 下 | 秋芽伸長開始 | 灌水 防風樹の刈り込み 台風対策 あから摘果 | 無降雨日数15日を目安に行う。 密閉度70%程度に刈り込む。 防風樹、防風垣の補修、補強をする。苗木や高接樹に支柱を立て誘引し、樹体被覆用の資材を用意する。排水、集水路の整備と潮風被害軽減のため散水施設の点検をする。 9月中旬までに最終葉果比30~40を目標として、小果と大果を中心に全摘果量の70%程度を摘果する。 |
| 9 | 上 月 中 下 | 根の伸長期 | 初秋肥施用 液肥の散布 仕上げ摘果 | 結果状態を考慮して、施肥基準を参考に施用する。 水溶性カルシウム剤を2~3回散布する。 10月中旬までに傷果、裾成果、小果を中心に摘果する。 |
| 11 | 上 月 中 下 | 着色開始 | 秋肥施用 ハウスビニール被覆 夏秋梢の処理 | 結果量の多い樹、樹勢の弱い樹では早目に、結果量の少ない樹でも中旬までには施用する。 施用量は、結果量を考慮して施肥基準を参考に行う。 ハウス栽培ではビニール被覆を行うが、側面は低温になるまで開放しておく。 かいよう病罹病枝のみ処理する。 |
| 12 | 上 月 | | 防寒・防鳥対策 | 露地栽培では、園地全体のネット被覆を行う。 |

(5) 施肥基準

南津海（成木）10a 当たり施用量

| 施肥時期 | 時期別割合 (%) | | | 成分量(kg) | | | 施肥上の注意 |
|-------------|-----------|-------------------------------|------------------|---------|-------------------------------|------------------|--|
| | N | P ₂ O ₅ | K ₂ O | N | P ₂ O ₅ | K ₂ O | |
| 春 肥 (3月下旬) | 30 | 30 | 30 | 9.0 | 6.8 | 4.5 | (1) 成木園10a当たり収量4,000kgを基準とする。 (2) 開花始めから生理落果終了時まで、N成分10%程度の液肥を300～500倍で3回散布する(初期肥大の促進)。 |
| 夏 肥 (6月上旬) | 30 | 30 | 30 | 9.0 | 6.8 | 4.5 | |
| 初秋肥 (8月下旬) | 20 | 20 | 20 | 6.0 | 4.5 | 3.0 | |
| 秋 肥 (11月上旬) | 20 | 20 | 20 | 6.0 | 4.5 | 3.0 | |
| 計 | 100 | 100 | 100 | 30.0 | 22.6 | 15.0 | |

結果幼木の施用量は表中施用量の 1/2、未結果幼木は 1/3 程度とする